

淀川水系流域委員会 第1回余野川ダムサブWG 議事メモ

開催日時：平成16年8月11日（水）15:20～16:56

場 所：梅田センタービル 18階 E会議室

参加者数：サブWGメンバー委員6名、サブWGメンバー外委員7名

河川管理者26名、一般傍聴者（マスコミ含む）29名

1. 開会

2. 審議

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

リ)：リーダー ・：その他委員 ←：河川管理者 傍) 一般傍聴者

資料についてはホームページを参照して下さい。

WGに先立って開催された現地視察や調査検討の中間報告について意見交換が行われた。

- ・ 本日の現地視察は、余野川ダムの代替案である水田貯留や遊水地、校庭貯留施設等を視察したが、ハードの説明が中心だった。洪水被害の軽減を目的とするあまり、ソフトによる対策が出てこないのではないかと。洪水被害の軽減ではなく、人命被害をゼロにすることを目的としてソフト対策を考えれば、より良い治水対策ができると感じた。
←ソフト対策については、先頃、猪名川総合治水協議会において、防災関係者とともに災害時の連絡システムの作成等に取り組みはじめたところだ（河川管理者）。
- ・ これまでの説明から、一庫ダムを2mかさ上げすると周囲の県道が水に沈むため、県道のかさ上げも必要になると理解していたが、実は県道は水に沈まないということが本日の説明でわかった。誤解を招きかねないので、きちんと説明するべきだ。
- ・ 余野川の維持流量についての明確な回答が得られなかったのが残念だ。
- ・ 「一庫ダム利水容量の振り替え案」として、一庫ダムの利水容量179万m³を余野川ダムに振り替えて、一庫ダムの治水効果を高める案が検討されているが、この179万m³を他の手段で振り替えることが可能になれば、余野川ダムの銀橋上流への治水効果はなくなるのではないかと。
←銀橋上流部の浸水被害については、他の全ての治水対策を実施しても、十分には解消されないため、銀橋・狭窄部の開削も含めて、あらゆる方法を検討している（河川管理者）。
- ・ 流域委員会の提言では、狭窄部の開削について、今後20～30年では狭窄部の下流域の堤防強化が完了することができそうにないため、これを配慮して「開削しない」とし

ているが、開削による下流への影響をクリアできるのであれば、開削を検討するのは結構なことだと思っている。

- ・余野川ダムに猪名川本川の洪水軽減効果があるのか、いまだに疑問だ。余野川ダムは、猪名川でなく、支流に建設されるため、猪名川本川への治水効果は間接的なものではないか。

←余野川ダムの治水効果については、これまでに説明したとおりだ。委員の言う「間接的」が、余野川ダムでは猪名川本川の洪水調節ができないという意味であれば、その通りだ（河川管理者）。

- ・ダムができることで、地元住民の中に洪水への安心感と油断が生まれてしまう。多田地区の住民は、一庫ダムができて、もう洪水は起きないと安心してた。ダムの目的や効果をきちんと住民に説明していく必要がある。

←余野川ダムの効果については、神崎川の水位低下効果や浸水面積の比較等、これまでも説明してきたが、もう一度、それぞれのダムの効果について、ダムWGで示したい（河川管理者）。

- ・以前提供して頂いた下流域の浸水面積の比較資料は、破堤した場合の浸水面積の比較だった。そうではなく、破堤しないと仮定して、余野川ダムの有無や開削の程度によって水位がどの程度上下するのかについて、詳細な情報を提供して欲しい。

←開削した場合に水位がどのように変動するかについては、現在検討中である。しかし、絶対に破堤しないようにすることはできないし、そういう保証もできないため、破堤しないという前提での検討は行っていない（河川管理者）。

- ・猪名川水系の河川管理は、国交省、兵庫県、大阪府にまたがっており、水系全体の治水対策が非常にわかりにくくなっている。現在検討中の遊水地やため池等の貯水施設についても、確かに検討を進めて欲しいとは思いますが、実際には誰が担当するのかもよくわからない。

- ・住民は、一庫ダムによって安全になったと安心してしまっている。一庫ダムと余野川ダムの銀橋上流やその下流域への影響や効果、一庫ダムの現在の運用方法について、きちんと説明していかなければならない。

←これまでも説明してきたが、今後のダムWGで、さらにきちんと説明したいと思っている（河川管理者）。

- ・棚田や水田での貯留について説明を受けたが、水田の生態系への配慮も忘れてはならない。生態系に配慮したために、予定していた貯水容量が減るという事態まで予測して検討しているのか。

←そこまでは検討していない。現在のところ、目一杯水を貯めるという前提で検討を進めている（河川管理者）。

- ・水田のかさ上げの説明では、農業関係者（行政、農家、地権者）の意見について、全く触れられていなかった。多少、不満を感じた。

- ・銀橋上流の河道の管理は、兵庫県の管轄だったと思うが、県を無視して議論を進めても良いのか。銀橋上流の堤防強化についても、直轄ではないため、整備内容シートには触れられていない。

←現在はあくまでも「案」の検討である。検討の中で効果が期待できると判断できれば、あらためて、府県と調整をしていきたいと考えている（河川管理者）。

- ・水田貯留や溜め池活用は、流量や水位にどの程度の影響を及ぼすのか。今後の説明では、ハイウォーターレベルとの比較等によって、遊水地等の貯留施設が水位に与える効果を示してほしい。

←調整池や水田のかさ上げ分を銀橋上流の流量に換算して、水位へ影響の検討を試みたいと思っている（河川管理者）。

- ・新たな遊水地案について説明を受けたが、遊水地のための用地確保や地元住民への説得などの問題があるため、極めて実現性が低いのではないかと。無駄な検討にならないよう、実現できない案はどこかの段階で諦めるべきだ。

- ・水田貯留については、農水省とトップレベルで連携して国土計画の中に位置づけ、地元住民や地権者への資金面でのバックアップ等の協力体制を築く必要がある。

- ・遊水地や水田貯留、ダムのかさ上げによって、社会生活や経済活動にいろいろな影響が出るが、それらを住民がどこまで我慢できるのか（浸水時間をどれだけ我慢できるのか等）についても検討を進めるべきだ。節水と同じように、住民が我慢しあうという発想も必要だ。

- ・河川管理者だけではできないこともたくさんある。困っていることがあれば、河川管理者は遠慮なく、地元の住民に訴えていけばよいと思う。

- ・一庫ダムの利水容量が、余野川ダムではなく、大阪府営水道に振り替えられれば、余野川ダムの建設目的はなくなるのか。

←府営水道への振替が決定すれば、銀橋上流の浸水被害軽減に関しては、余野川ダムの治水効果はなくなる。ただし、余野川や銀橋下流への治水効果については今後も引き続き検討をし、結果を示していきたい（河川管理者）。

- ・水田のかさ上げよりも、河道掘削の方がコストは低いのではないかと。河道掘削のコストや効果について、わかりやすい説明をお願いしたい。

←水田のかさ上げは非常に難しいと考えている。河道掘削以外の代替案についても、事業比較による効果の説明をしていきたい（河川管理者）。

- ・現在までにかかった余野川ダムの建設コストについて教えてほしい。

- ・洪水時に水田に水を貯めるためには、あぜ道のコンクリート化やポンプ設置が必要になり、水田の生態系が損なわれる可能性が高い。水田は現在のままにしておき、浸水した場合に金銭的な補償で対応するという対策の方が好ましい。

2 そのほか

庶務より資料 1-6 を用いて、今後のスケジュールについて説明が行われた。

3 一般傍聴者からの意見

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・委員会には、余野川ダムの上水の必要性について、検討を進めてほしい。先ほど河川管理者から、一庫ダムの利水容量を大阪府営水道へ振り替えれば、余野川ダムの銀橋上流の上水効果はなくなるが、銀橋下流への効果については今後も検討していきたいとの説明があった。しかし、銀橋下流の洪水対策としてなら、ダム建設よりも河道掘削の方がコストが安いのではないか。そういった検討を詰めて行ってほしい。

以上